

理科教育の一層の充実・発展を目指して

日本理化学協会会長
前・東京都立晴海総合高等学校長 仁井田 孝 春



令和 6 年度全国理科教育大会・第 95 回日本理化学協会総会は、東京都において 8 月 7 日（水）から 8 月 9 日（金）の 3 日間で開催されます。大会運営委員長の東京都立小平南高等学校・中野清吾校長先生をはじめ、東京都の理科の先生方には、

コロナ禍からの教育活動の立て直しや新学習指導要領の実施等、ご多用の中にありながら準備を精力的に進めて頂き、心より感謝しております。また、全国から実践・研究を持ち寄り、共に理科教育の発展・充実を目指してご参加頂く、多くの先生方にも感謝申し上げます。

今回の大会主題は、『「持続可能な社会の担い手を育む理科教育」－生徒の創造的な探究・挑戦・協働を通して－』です。工学院大学新宿キャンパスを会場とし、文部科学省講話では、「これからの理科教育を考える－個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して－」の演題で、文部科学省初等中等教育局・教科調査官・小林一人氏からご指導頂きます。記念講演では、工学院大学情報学部情報デザイン学科教授・田中久弥氏から「DXの本当の意味は何か。DX実践ラボの取り組み」の演題でお話を伺うことができます。

研究協議においては、「スペシャリストの育成」「市民としてのリテラシー向上」をテーマに 9 つの分科会を企画し、多岐にわたる実践事例報告や情報交換・意見交換の場をご準備頂いております。多様な分野の研究発表・実験講習会・ワークショップ・コース別研修等も魅力的です。待望の教育懇話会を 5 年ぶりに復活できることも含めて、本来の研究大会を取り戻すことができるのは大きな喜びです。

本研究大会を通じて、高等学校における新学習指導要領の実施及びその検証に関する知見や提言も含め、理科教育のさらなる質の向上等、大きな成果が得られるものと確信しております。

さて、日本理化学協会は、高等学校物理・化学教育の振興をはかり、高等学校理科教育の向上に資するとともに、あわせて会員の交流を深め、小・中・高・大学相互の理科教育の連携を密にすることを目的に、1926 年（大正 15 年）に初代会長・加納治五郎氏（柔道・講道館の創始者）のもとに創立した歴史と伝統のある理科教育研究団体であります。2025 年（令和 7 年）には、創立 100 年目を迎えます。

また、本協会主催の全国理科教育大会や学校理科教育施設・設備に深く関係している、1953 年（昭和 28 年）制定の理科教育振興法も施行（昭和 29 年）から 70 年が経過しました。戦後の各学校における理科教育関係予算が乏しかった頃に科学技術の振興を図ることは、社会経済文化の向上のために必要な国の基本政策の一つであり、科学技術の基礎を形作る初等・中等教育における理科教育を充実していくことは、極めて重要な課題となっておりました。そのような背景の中、本法は日本理化学協会が中心となり関係の理科教育団体の協力も得て国に働きかけた結果、議員立法として成立、しかも国庫補助金付きの極めて稀有な法律として制定されました。施行当時の予算額は 4 億円程と聞いています。サラリーマンの初任給が 1 万円程度の時代でしたから、現在の価値に換算すると 100 億円以上にも上る破格の補助金が交付されたようです。以来、70 年以上も国庫補助付きの議員立法として継続されていることから、奇跡の法律と言っても過言ではないと思います。

本協会では、2025 年（令和 7 年）5 月 11 日（日）に日本理化学協会創立 100 周年記念事業及び理科教育振興法施行 70 周年記念事業を日本科学未来館において開催する予定です。関係者の皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、ご臨席を賜りますようお願い申し上げます。記念事業を通して改めて理科教育の充実・発展を図るとともに、小・中・高・大の理科教育の連携を一層深めて参りたいと存じます。そして、国からの手厚いご支援を頂き、科学技術創造立国としての地位をより強固なものにしていきたいと決意しております。

結びに、任期満了による校長職退任にともない、本年度の総会をもちまして会長を交代させていただきます。皆様からのご協力とご支援に心より感謝申し上げます。

令和6年度全国理科教育大会
第95回日本理化学協会総会
東京大会のお知らせ

東京大会運営委員長
東京都理化教育研究会会長
東京都立小平南高等学校長 中野清吾



平成26年の第85回総会以来、10年ぶりに東京で開催する運びとなりました。東京大会では「持続可能な社会の担い手を育む理科教育－生徒の創造的な探究・挑戦・協働を通して－」を大会主題とし、

「スペシャリストの育成と市民としてのリテラシー向上」をテーマに研究協議を設定しております。新学習指導要領施行3年目にあたり大いに議論し、今後の考え、研鑽を深めて参りましょう！皆様のお越しを東京にて運営委員一同お待ちしております。

1 大会主題

「持続可能な社会の担い手を育む理科教育」
－生徒の創造的な探究・挑戦・協働を通して－

2 会場

工学院大学新宿キャンパス

3 日程 令和6年8月7日（水）～9日（金）

〈第1日 8月7日（水）午後〉

常務理事会、大会事前打合せ、全国理事会、
文部科学省講話、研究発表者会議並びに研究協議会
〈第2日 8月8日（木）〉

開会式及び表彰式、総会、記念講演、科学の広場、
実験講習会・ワークショップ、研究協議、教育懇話会

〈第3日 8月9日（金）〉

研究発表、科学の広場、閉会式。午後、コース別研修

4 講話・講演

□ 文部科学省講話

演題 「これからの理科教育を考える－個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して－」

講師 文部科学省初等中等教育局
教科調査官 小林 一人 氏

□ 記念講演

演題 「DXの本当の意味は何か。DX実践ラボの取り組み」

講師 工学院大学 情報学部 情報デザイン学科
教授 田中 久弥 氏

5 研究協議

- ①スペシャリスト育成のための物理教育
- ②市民としてのリテラシー向上のための物理教育
- ③スペシャリスト育成のための化学教育
- ④市民としてのリテラシー向上のための化学教育
- ⑤スペシャリスト育成のための生物教育
- ⑥市民としてのリテラシー向上のための生物教育
- ⑦スペシャリスト育成のための地学教育
- ⑧市民としてのリテラシー向上のための地学教育
- ⑨スペシャリスト育成のための実験・実習
- ⑩市民としてのリテラシー向上のための実験・実習
- ⑪スペシャリスト育成のためのICT活用
- ⑫市民としてのリテラシー向上のためのICT活用

*⑤, ⑨, ⑩ 分科会は実施いたしません。

6 研究発表

物理、化学、地学の3分野

7 科学の広場

第2日午前・午後、第3日午前

8 生徒発表

上記「科学の広場」内で行います。

9 実験講習会・ワークショップ

10 コース別研修 6コース（任意参加）

- ①国立天文台、②東京スイソミル、③日本科学未来館、
④国立科学博物館、⑤国立極地研究所、⑥神田川流域
と戸山公園付近の地形を巡る巡検

11 その他

大会第2日（8月8日）17:45より工学院大学新宿キャンパス 7階学生食堂で「教育懇話会」が予定されています。

12 大会事務局

東京都立城東高等学校内 事務局長 遠藤拓也

TEL：03-3637-3561 FAX：03-3682-2164

E-mail：Takuya_Endou@education.metro.tokyo.jp

協会賞受賞にあたって

回転体の流体力学的解析を通じた探究活動

愛媛県立野村高等学校 國元浩平



本研究は偶然から生まれたものでした。きっかけは、ある日の放課後、私が偶然通りかかった教室で資格試験の勉強をしていた生徒が「鉛筆キャップに逆回転をかけて飛ばす」という遊びをしていたことです。気分転換に鉛筆キャップ

を飛ばしていた生徒は私に気付き、なぜこのような現象が起こるのか、と原理を質問してきました。私がおその日通りかからなければ、そしてその生徒の疑問がなければ、この題材を研究することはなかったでしょう。

この現象を調べていくと流体力学の「マグヌス効果」にたどり着きました。流体力学については私自身もあまり知識がない状態でしたが、日常から生まれた生徒の疑問を大切にしたいという思いがあり、この題材をさらに研究することにしました。

研究にあたり「鉛筆キャップのような小さな物体の回転でもマグヌス効果が発生する気流が本当に起こっているのか」という疑問が生じ、その検証のために大型の風洞を借りての実験なども検討しました。しかし、大型風洞の風圧に鉛筆キャップが耐えられないことや気流の可視化が困難ということもあって、生徒でも簡単に自作できる小型風洞を用いた検討を行うことにしました。最終的に、3Dプリンターで作った鉛筆キャップと同形状の模型とそれを回転させるための自作の回転台、そして自作の小型風洞を用いることでマグヌス効果が発生する際に起こる気流の乱れを再現することができました。自作の実験セットを用いて生徒の疑問の答えにたどり着いた時の喜びは今でも覚えています。また、せっかくならマグヌス効果で生じる揚力も測定したいと思い、測定方法も検討しました。最終的には、質量計の上で鉛筆キャップ模型を回転させ、そこに風洞装置を逆回転させて風を送った際の質量計の値を測定することで揚力を測定することが発見でき、定量的な実験も行うことができました。さらに、この研究で得た知見を「総合的な探究の時間」の探究活動に生かすことで生徒がより主体的に探究活動に参加することができ、物理への興味関心や思考力を一層高める手段を検討できました。

最後に、このような名誉ある賞を授けてくださった日本理化学協会の皆様に心から感謝申し上げます。また、本研究を行うにあたり、愛媛県総合教育センターの皆様、愛媛県高等学校教育研究会理科部会物理部門の皆様にご有意義な助言をいただきました。重ねて感謝申し上げます。

新たな水の検出試験紙の開発

東京都立立川高等学校主任教諭 亀井善之



トイレトペーパー等の再生紙には、繋ぎにデンプンが使われており、試験管を使わなくてもヨウ素デンプン反応を確認できることが知られています。そこで、ヨウ素デンプン反応を示したトイレト

ペーパーを加熱したら、水溶液のときと同様に無色になり、放冷したら青紫色に戻るのではないかと仮説を立てて実験してみました。時間とともに褐色が薄くなるだけで、青紫色に戻ることはありませんでした。しかし、褐色に変化したトイレトペーパー上に偶然水を滴下したところ、青紫色に戻りました。この発見は、褐色に変化したトイレトペーパーが重金属を含まない上、水を検出する仕組みが生徒にもわかりやすい、新たな水の検出試験紙として使えるのではないかと考え、これを「ヨウ素ヨウ化カリウムデンプン紙」と名付け、実用化に向けた検証実験を重ねました。

レシピ作りから始まり、水の検出試験紙としての有用性を評価するため、ヨウ素ヨウ化カリウムデンプン紙、塩化コバルト紙、硫酸銅(Ⅱ)無水物の3つを比較する様々な検証実験を行いました。水以外の溶媒に対する反応性、溶媒の水含有量に対する反応性、水蒸気に対する反応性、湿度による反応性など、検証実験を重ねる度に新たな疑問が生じ、そこから新たな仮説を立て、さらに検証実験を重ねて結果から考察するといった地道な研究の過程は、まるで私自身が生徒の探究活動を体験しているような想いでした。

各学校においても、生徒の探究指導に苦勞されている先生がいらっしゃるかもしれませんが、教員自身が研究を通じて知の探究を継続していくことが、生徒のファシリテーターとして重要な資質であると思います。私自身、校務や生徒の探究指導等で日々自分のための時間確保が難しい中、数十分程度の短時間の検証実験を地道に継続して成果を上げていきました。当時の勤務校の田中義靖指導教諭からいただいた、「自分の研究や探究指導から、教員が逃げてはならない」というお言葉が今でも心に残っています。

最後に、このような名誉ある賞を授けてくださった日本理化学協会の皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年度新役員挨拶

日本理化学協会の さらなる発展に向けて

日本理化学協会新会長
東京都立多摩高等学校長 上村 礼子



仁井田会長の後任として、8月に開催されます日本理化学協会総会にて会長の拝命を予定しております上村礼子と申します。本協会とは、平成19年に勤務校の校長が副会長をされており、それがご縁

で関わらせていただくことになりました。平成20年度、21年度は東京都理科教育研究会事務局長として、全国理事会や全国理科教育大会に参加させて頂いておりました。また、平成29年から経理部副部長を、令和元年からは経理部部長を拝命しました。引き続き令和5年度から調査部部長及び教育課程検討委員会委員長として、理科教育振興についての調査に関わらせていただいております。

今年5月にご逝去された元会長であり元事務局長である菊池正仁先生が「日本理化学協会百年の理科教育への思い」(2017、「学術の動向」)で、大正15年の日本理化学協会の創立や、昭和28年の理科教育振興法の制定について述べられています。菊池先生は、教育課程における理科の比重の変遷や、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)が先行的に行ってきた課題研究の実践から、生徒が自主的・主体的に課題を設定することの重要性について説明されています。令和5年度の本協会の調査部アンケートでは、およそ5割という高い割合で課題研究を実施しているという回答があり、本協会の探究学習に関する調査が始まって以来、最も高い割合になっています。これは、理科教育振興のために御尽力されてこられた諸先輩方、全国の理科の先生方の努力の賜物であると確信しております。一方で、探究学習を困難にする要因として授業時間の不足、施設・設備の不足、探究の指導を担える教員の不足などの課題が挙げられていました。

本協会の一層の充実と発展を進めるとともに、令和7年5月11日に予定されている理科教育振興法制定70周年記念式典及び日本理化学協会創設100周年記念式典の準備を進めて参ります。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

理科教育の発展を祈念して

副会長(東北ブロック)
宮城県高等学校理科研究会会長
宮城県古川高等学校長 牛来 拓二



青森県立八戸東高等学校長 井上誠之先生の後を受け、東北ブロック副会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしく願います。

さて、東北ブロックでは、岩手県盛岡市「アイーナ」(いわて県民情報交流センター)で実施される令和7年度の全国理科教育大会(日本理化学協会総会)に向けた準備を進めております。東北ブロックとして平成18年度の宮城大会、平成27年度の青森大会以来の開催ということで、隣県の宮城県としても協力して全国の皆様をお迎えしたいと考えております。

さて、宮城県高等学校理科研究会では毎年5月に春季総会、10月にそれぞれ物理、化学、生物、地学、実験部会で秋季総会を行うなど自己研鑽を重ねております。また、自然科学系の部活動や探究活動の研究発表の場として生徒理科研究発表会を設け、令和6年度で第77回を数えることとなりました。生徒の主体的な探究活動を支えることが各学校での共通の課題ではありますが、このところは年々発表件数も増えており、全国高等学校総合文化祭における入賞も続いていることから、理科教育の裾野を広げていくような交流がさらに盛んになるものと期待しております。

微力ではありますが、理科教育の発展・充実のために力を尽くしていく所存です。どうぞよろしく願います。

理科教育の充実・発展をめざして

副会長(関東ブロック)
千葉県高等学校教育研究会理科部会長
銚子市立銚子高等学校長 林 広幸



このたび、関東ブロックの副会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしく願います。

関東ブロック7県は、輪番で毎年11月に関東理科教育研究発表会を開催し、研究発表、研究協議、教材・資料等の展示、

ポスター発表などを行い、理科教員相互の交流をとおりて理科教育の充実・発展に努めています。今年度は、『未来の創り手を育む理科教育』をテーマとして11月15日（金）に千葉県総合教育センターで開催します。

さて、文部科学省が3000億円の基金を活用して大学の理工農系分野を拡充する事業を行い、デジタル人材の育成を推進しています。高校へも1校1000万円を上限とした補助を行う高等学校DX加速化推進事業により、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びの強化が求められています。本協会の取組により、このような時代に即した理科教育が実現することを期待しています。

甚だ微力ではありますが、理科教育の充実と発展のため尽力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

理科教育の充実と発展に向けて

副会長（東海ブロック）

岐阜県高等学校教育研究会理化部会会長

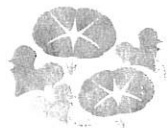
岐阜県立大垣東高等学校長 **大橋 雅之**



今年度、東海ブロックは岐阜県が担当することとなり、本協会の副会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしく願い申し上げます。

現在、国は2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成に力を入れており、今後迎える超スマート社会（Society5.0）の到来や、日本社会に根差したウェルビーイングの向上には、教科「理科」の教育活動はもちろんのこと、理科に関わる探究的な活動やサイエンスアウトリーチなども含めた理科教育の果たすべき役割は非常に大きいと考えております。

微力ではございますが、副会長として本会の発展と理科教育の充実のために尽くしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



未来に向けて理科教育の更なる発展を

副会長（近畿ブロック）

大阪府高等学校理科教育研究会会長

大阪府立美原高等学校長 **東 文義**



昨年度に引き続き、近畿ブロックの担当を大阪府が務めることとなりました。どうぞよろしく願い申し上げます。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行

され、社会には再びコロナ前の活気が戻ってきました。新型コロナウイルス感染症が地球規模で甚大な被害をもたらしたことで、多くの国では改めて科学技術に対する期待が高まり、様々な研究開発が活発になったと言われています。日本でも、AI技術、量子技術、マテリアル、バイオテクノロジー、フュージョンエネルギーなど多くの分野において、新たなイノベーション創出に向けて動き出しています。そして、これら新しい技術を支えるのは言うまでもなく「人」です。これからも、未来に向けて新たな価値を生み出し発展させるためには、多くの人材が必要となります。

このような中、次の世代へ着実にバトンをつないでいくためにも、理科教育の重要性は益々高くなるものと感じております。そのため日常生活や社会との関わりを踏まえつつ、新しい学習指導要領に沿った「授業」、そして「実験・観察」の工夫や改善を通して好奇心に基づいた学びを実現し、答えのない課題に立ち向かう探究心を育てていくことは非常に重要であると認識しております。

微力ではありますが、理科教育を通じて将来を担う人材育成に関わっていきたくと考えておりますので、ご支援・ご協力をどうぞよろしく願いいたします。

新たな未来を創造する理科教育

副会長（北信越ブロック）

長野県長野吉田高等学校長

内藤 信一



今年度、北信越ブロックは長野県が担当させていただくことになりました。どうぞよろしく願いいたします。

本年度は8月1日（木）・2日（金）に北信越理科教育研究会を

長野市にて開催します。昨年度はコロナの影響でオンライン開催でしたが、今年度は対面による開催です。北信越各県から多数のご参加をいただけるよう準備を進めているところです。

長野県須坂市にある須坂高校では、50年以上前から毎年文化祭に合わせて巨大な竜のオブジェを作っています。これを最初に指導したのは建築士の資格を持つ物理の先生で、その先生は文化祭の終わりに「設計図は燃やせ。」と言ったそうです。竜の像を作ることが最終的な目的ではなく、生徒たちの課題解決力、団結力、愛校心を育てることが目的で、その為には前の年の設計図は邪魔なものだからです。

それとは逆に、理科教員の持つ実験法や授業法のノウハウは、燃やすべきではなく、積み重ねるべきものです。理科の研究会は先生たちの実験開発力を高めるのが最終目的ではなく、生徒の理科の力を高めるのが目的だからです。授業の方法や実験法を継承しながら進歩させるために、理科の研究会の発展に尽力したいと思います。

オールえひめで取り組む理科教育

副会長（中四国ブロック）

愛媛県高等学校教育研究会理科部会長

愛媛県立宇和島東高等学校長 重松 聖二



本年度、中四国ブロックを愛媛県が担当させていただきます。よろしくお願いたします。

愛媛県高等学校教育研究会理科部会では、研究主題「新たな時代を豊かに生きる力の育成～個別最

適な学びを実現する理科教育～」を掲げ、物理・化学・生物・地学の各部門の研究組織（県内約100名の理科教員が研究委員）が核となり、互いに連携しながら授業改善やICT活用等の研究を深め、その成果を県内の理科教員が参加する12月の研究大会で報告・普及しています。

また、愛媛大学と連携して「えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム」を実施し、県内の理科教員の課題研究の指導力向上を図り、その成果報告会として開催する「えひめサイエンスチャレンジ」では、県内各校の生徒がポスターセッションを行い、質の高い科学交流を行っています。そして、プログラム受講教員が指導する課題研究が、日本学生科学賞において受賞（読売

新聞社賞）するなど顕著な成果を上げています。加えて、えひめスーパーハイスクールコンソーシアムでは、普通科・理数科の学校だけでなく、商業科・工業科・農業科・水産科等、県内の様々な学科の生徒が研究発表を行っており、他校との科学交流はもとより、他分野の研究を見聞きして自分たちの視野を広げる取組も行っています。

さらに、愛媛大学が高大接続として実施している、高校のレベルを超えた国際的な活動を含む高度で体系的な理数教育プログラムである「四国型次世代科学技術チャレンジプログラム」(SHIN-GS)に県内各地の多くの生徒が積極的に参加しています(令和6年度は412名)。このSHIN-GSで個人研究を行った生徒が各学校で行うグループ研究のリーダーとなり、研究の質を向上させる相乗効果を期待しています。

このように、愛媛県では教員も生徒も多くのチャレンジをし、「オールえひめで取り組む理科教育」を推進しています。

理科教育の一層の充実と振興のために

副会長（九州ブロック）

佐賀県高等学校教育研究会理科部会長

佐賀県立佐賀北高等学校長 上 赤 真 澄



このたび九州ブロック代表を佐賀県が担当することとなり、本協会の副会長を務めることとなりました。皆様にご迷惑をおかけしないよう、精一杯務めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ます。

佐賀県には佐賀県理科教育振興会という組織があり、小、中、高が連携して理科教育の振興にあたっています。その主催により、児童生徒理科作品展覧会と児童生徒理科研究発表会を毎年開催しており、本年度で理科作品展覧会は74回、理科研究発表会は77回となります。小、中に比べると高校の活動が活発でない時代もありましたが、令和元年度の全国高等学校総合文化祭・さが総文をきっかけに、自然科学系の部活動もずいぶん活発になりました。現在では理科作品展覧会、理科研究発表会のどちらも質、量ともに充実したものになってきています。これも生徒達の自然科学に対する探究心を理科の先生方がしっかりと受け止め、サポートしていただいている成果だと

思っています。

また、九州地区では毎年夏季休業中に「九州高等学校理科教育研究大会」を開催しており、九州の高等学校理科教員の良い研修の場となっております。本年度は第62回沖縄大会を那覇市で実施することとしており、「科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する理科教育」を主題に講演や研究発表等が行われる予定です。ちなみに来年度は佐賀大会ですので、本県も事務局を中心に来年度の開催に向けて準備しているところです。

新しい時代を担う人材育成のため、理科教育の充実と発展に微力ながら貢献できればと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

理科教育の発展を願って

調査部長

東京都立八王子東高等学校長 佐藤 聖一



このたび、日本理化学協会調査部長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしく願いいたします。

ご承知の通り、改訂学習指導要領は今年度から高等学校の全学年においての実施となります。各学校とも科目構成の変更への対応をはじめとして、知識理解の質を高めることや深い学びの実現、カリキュラムマネジメントの確立など、不断の研究・授業改善に取り組んできました。

また、新型コロナウイルス感染症対応の中での授業実施は急速なICT化をもたらし、授業形態の変化が一気に進みました。

今後、様々な感染症対応の中で行われた学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動がどの程度実現したかの検証を進めるとともに、改めて、自然の事物や現象を科学的な視点で捉える教育の実現に向け、必要な事項について検討していく時期を迎えます。

世の中の様々な存在する課題を解決するためには、生徒に物事の本質を見抜く力や社会を生き抜く力を育むことが必要であり、理科のそれぞれの分野はその力を生み出す鍵となりうるものと思っています。

微力ながら、理科教育の発展に向けて努めていきたいと考えております。

令和7年度全国理科教育大会 第96回日本理化学協会総会 岩手大会のお知らせ

岩手大会運営委員長

岩手県高等学校教育研究会理科部会長

岩手県立北上翔南高等学校長 千葉 勝幸



平成9年度第68回大会「イーハトーブ・夢・銀河－理科教育の理想を求めて－」以来、28年ぶりとなる岩手県大会開催に向けて準備を進めているところです。今回は「全ての子供たちの可能性を引き

出す理科教育－個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて－」をテーマに研究協議を設定しているところです。

1 開催日時

令和7年8月7日（木）～8月9日（土）

※コース別研修Aは8月10日（日）まで

2 会場

アイーナ（いわて県民情報交流センター）

3 日程（予定）

第1日 8月7日（木）

12:00～12:50 常務理事会

13:30～14:30 全国理事会

14:30～15:30 文部科学省講話

15:30～16:50 研究代表者会議および研究協議会

第2日 8月8日（金）

9:15～10:05 開会式

10:05～11:00 総会

11:00～12:30 記念講演

12:30～13:00 写真撮影

9:30～16:45 科学の広場

14:15～16:45 研究協議

第3日 8月9日（土）

9:00～11:45 研究発表

12:00～ コース別研修

4 大会事務局

岩手県立北上翔南高等学校 教諭 佐藤 浩之

TEL 0197-71-2122 FAX 0197-71-2160

事務局だより

事務局長 富岡 康夫



菊池正仁先生を悼む

令和6年5月11日、菊池正仁先生が逝去されました。先生は平成10年8月福井大会より平成16年8月奈良大会まで協会会長、その後顧問、協会創立100周年の準備委員長を歴任されました。

我が国の高等学校の理科教育の推進に力を注ぎ、SSHの発展に大きく力を注ぎました。菊池先生との一番の思い出は、平成16年1月17日、日本科学未来館での理科教育振興法制定50周年記念式典です。当時の皇太子殿下、現天皇陛下のご来臨を仰ぎ、記念式典会長の元文部大臣 有馬朗人先生、ノーベル賞物理学受賞者の小柴昌俊先生、同化学賞受賞者の白川英樹先生のご列席で実行委員長 菊池正仁先生、中山雄一事務局長のお力添えで、司会進行を行いました。翌日、菊池先生、文部科学省丸山洋司様と三人で東宮御所へ行幸お礼に参りましたことは一生の思い出です。

5月19日の告別式に感謝状とともに、弔辞を捧げました。様々な思いの中で、先生の理科教育への情熱を忘れずに力を注ぎたいと思います。

荒瀬克己先生との再会

現中央教育審議会会長で独立行政法人教職員支援機構理事長の荒瀬 克己先生に再会しました。5月23日、東京ガーデンパレスで日本理科教育振興協会の総会が開催され、講演をされました。「こどもを主語にする学校をめざして」との演題でした。内容は堀川高等学校での教育経験です。ご存じのように、京都市立堀川高等学校の校長先生でした。堀川高等学校は平成14年(2002)度指定の第I期のSSH校でした。平成16年にSSH情報交換会が初めて開催され、私は校長分科会の助言者として出席していました。探究活動をどのように推進するかで多くの校長先生方は悩んでいました。様々な方法を議論する中で、生徒の主體的な気付きを大切に、答えの道筋を誘導しないことや大学の研究のようにしないこと、卒業生の経験を生かして活動の中に入ること、特に面白さとともに感じる探究活動にして欲しいことなどをお伝えした記憶があります。荒瀬先生と今後の教育の方向「堀川の探究」など様々なお話をしたことを覚えています。

その後、全国の高等学校校長会や中央教育審議会に出席し、校長会として「科学と人間生活」というキャリア

教育の必履修について意見を述べたときもお話をしました。20年近く前のことで、私のことをしっかり覚えて下さっていることはとてもうれしく懐かしかったです。

探究活動は最新の状況では、次のように段階分類をしています。参考にしていただくと有難いです。

1. 確認としての探究
2. 構造としての探究
3. 導かれた探究
4. 開いた探究
5. 真正の探究

日本理化学協会設立100周年式典と 理科教育振興法制定70周年記念式典について

表記の組織体制について、顧問・関係役員での検討状況をお知らせします。

日時 令和7年5月11日 日曜日

午前 日本理化学協会設立100周年式典

午後 理科教育振興法制定70周年記念式典

場所 日本科学未来館 未来館(みらいCAN)ホール
〒135-0064 東京都江東区青海2丁目3番6号

組織 ○日本理化学協会設立100周年式典

会長 西原 寛 先生(協会学術顧問)

実行委員長 赤石 定治(協会顧問)

○理科教育振興法制定70周年記念式典

会長 清原 洋一 先生(協会学術顧問)

実行委員長 上村 礼子(協会次期会長)

今後、会員の皆様には検討状況のお知らせをしながら、ご協力とご出席のほどお願いいたします。

DXハイスクール予算について

3月末に全国の都道府県事務局あてに情報を配信しました。公立746校、私立264校、計1010校が採択されました。ご応募ありがとうございました。

(4月16日 文部科学省HP発表)

事務局の主な活動

- 3月18日 東レ理科教育表彰式出席 日本工業倶楽部
- 4月14日 部長会開催
- 5月15日 全国理事会研究者代表協議会 工学院大学
- 5月23日 日本理科教育振興協会総会 参加
- 6月19日 監査実施、無事終了
- 7月5日 部長会開催
- 7月13日 放射線教育 日本科学技術振興財団

広報編集部 編集委員

○塩崎 智之 海老澤貞行 三池田 修 森田 有宏
小林 寛和 金田 和久 小坂美貴子